

平成 1 5 年度

第 2 回 人工海浜専門部会

議事概要

日 時 平成 16 年 2 月 26 日 (木) 13:30 ~ 16:30
場 所 メルパルク沖縄 3 F 「陽春」の間

議事概要

・ 原風景について

- ・ 原風景のヒアリング結果については、「景観」「動植物」「環境」などの区分に価値判断を加えた上で再整理すること。

・ 機能配置等の検討

- ・ 導入施設の内、ビーチ背後地の汽水域の配置などについては、その実現には水理学上の課題もあることが指摘されたが、基本的には実現を目指す方向が確認された。
- ・ オカヤドカリの生息する砂浜については、えさや砂の質などを始めとする「場」を創造することが重要である。
- ・ 総合学習の時間での利用などについて、環境利用学習部会での検討結果との連携を図りながら調査を進めることが確認された。
- ・ ビーチの計画に当たっては、県内の自然海岸の実態を充分調査し海浜の安定性の向上を図ることとした。
- ・ 水上バイクとスキndaイビングなど、利用が相反するものもあるが、規制する方向よりも出来るだけ様々な利用形態が両立できる方向で検討すること。また、保養機能や身障者利用などにも配慮することが確認された。
- ・ マングローブ林の整備のあり方について、比屋根湿地での状況を踏まえた上で、検討することとした。

・ 海浜安定性

- ・ 汀線変化の予測について、綿密な検討がなされていることが評価されたが、条件が複雑なので、更なる検討を行うべきことが指摘された。
- ・ ビーチの計画は安定性が大切であり、現埋立計画の法線とのギャップについて十分検討すべきである。
- ・ 磯場の設計をどうするか、汽水域の検討をどのように進めていくかが課題とされた。
- ・ 人工海浜の沖合に貴重な生物の生息地があるので、砂が出ていかないように、検討する必要がある。

・ その他

特段無し